



GPIF 第5期中期計画案 骨子

第1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1. 年金積立金の管理及び運用の基本的な方針

（1）年金積立金の管理及び運用の基本的な方針

- ・ 専ら被保険者の利益のために、長期的な観点から安全かつ効率的に実施
- ・ 関係法令・積立金基本指針に従った管理・運用

（2）年金積立金の管理及び運用に関し遵守すべき事項

① 受託者責任の徹底

- ・ 注意義務・忠実義務の遵守

② 市場及び民間の活動への影響に対する考慮

- ・ 市場規模を考慮し、過大なマーケットインパクトを蒙ることがないように努める
- ・ 株式運用において個別銘柄の選択は行わない

（3）他の管理運用主体との連携

2. 国民から信頼され、法人としての使命を着実に果たすための健全な組織運営

- ・ 経営委員会・監査委員会・執行部が、適切に役割分担及び連携

3. 基本的な運用手法及び運用目標

（1）基本ポートフォリオに基づく運用

- ・ 実質的な運用利回りを長期的に確保できるよう、基本ポートフォリオを策定し、これに基づき運用

（2）ベンチマーク収益率（市場平均収益率）の確保

- ・ 中期目標期間を通じて、**資産全体の**複合ベンチマーク収益率を確保
- ・ 各年度における資産全体の複合ベンチマーク収益率及び各資産のベンチマーク収益率を確保するよう努める

次期中期計画の骨子案（現時点のイメージ）

（注）赤字部分が現行計画からの実質的な追加・修正部分

- （3）モデルポートフォリオの策定
 - ・ 他の管理運用主体と共同して策定
- （4）モデルポートフォリオの見直し
 - ・ 運用環境が現実から乖離し、又は大きく変化する可能性がある等、経営委員会がその必要性を認めるときは必要に応じて検討・見直し
- （5）基本ポートフォリオの基本的考え方
 - ・ 専門的知見や内外の経済動向を考慮し、フォワード・ルッキングな分析を踏まえて、長期的な観点から策定
- （6）基本ポートフォリオ
 - ① 資産区分ごとの構成割合と乖離許容幅
 - ② 乖離許容幅の考え方
 - ③ オルタナティブ資産運用の位置づけ
- （7）基本ポートフォリオの見直し
 - ・ 運用環境が大きく変化する可能性がないか等について**毎年度適時適切に検証を行い**、経営委員会が必要と認めるときは基本ポートフォリオの見直しの検討、必要に応じて速やかに修正
- （8）年金給付のための流動性の確保

次期中期計画の骨子案（現時点のイメージ）

（注）赤字部分が現行計画からの実質的な追加・修正部分

4. 運用の多様化・高度化

（1）運用手法

- ・ 原則として、パッシブ運用とアクティブ運用を併用。アクティブ運用については、定量的な実績を勘案した定性評価に基づき、**超過収益が獲得できるとの期待を裏付ける十分な根拠を前提に、資産全体の適正なリスク量の下**、スタイル分散等に留意して実施
- ・ ベンチマークについては幅広い観点から検討
- ・ ベンチマークにより難しいオルタナティブ資産については、**伝統的資産対比の運用パフォーマンス評価方法等を構築し、必要に応じて改善を図りながら評価**
- ・ インデックス・ポスティングを通じた継続的な情報収集・分析

（2）運用対象の多様化

- ・ 運用対象の追加に当たっては、被保険者の利益に資することを前提に、経営委員会で幅広く検討
- ・ オルタナティブ投資については、分散投資による運用の効率性を向上しつつ**超過収益を獲得する観点から行うもの**。高い専門性を有する投資フロント人材**及び法務・税務機能やリスク管理を担う人材の拡充等により**良質な案件の選定力を高めるとともに、ミドル・バック機能についても更なる充実を図り、適切に取組を推進

5. 運用受託機関等の選定、評価及び管理

- ・ **過去の運用実績等だけでなく、投資対象の選定の考え方やリスク管理の手法等も含めて総合的に評価**
- ・ 超過収益の獲得やスチュワードシップ活動など、より付加価値の高い運用機関の採用に向けた評価手法の高度化
- ・ 運用の高度化・多様化に対応したより柔軟かつ質の高い資産管理機関の利用・運用データの利活用の促進
- ・ 運用フロントの専門性を最大限発揮させるためのミドル・バック体制の強化

6. リスク管理

（1）年金積立金の管理及び運用におけるリスク管理

- ・ リスク管理の状況については、理事長から経営委員会に対して定期的に、**必要がある場合には速やかに**報告し、経営委員会においても適切にモニタリング
- ・ **国内の日中取引時間以外のリスク管理体制について検討**
 - ① 資産全体
 - ・ **基本ポートフォリオからの乖離リスクについて、参照値等を設定した上で、適切に管理**
 - ・ 市場リスク、流動性リスク、信用リスク、カントリーリスク等を管理
 - ② 各資産
 - ・ **各資産の政策ベンチマークからの乖離リスクを適切に管理**
 - ③ 各運用受託機関
 - ・ 各社の運用状況及びリスク負担の状況や運用体制の変更等を把握し、管理・評価
 - ④ 各資産管理機関
 - ・ B C P 等の観点から資産管理機関における安定的な運営状況を継続的に注視
 - ⑤ 自家運用
 - ・ 運用ガイドラインを定め、適切に管理
 - ⑥ トランジションマネジメント
 - ・ 資金移動のコストを適切に管理する体制・仕組みの整備

（2）リスク管理・内部牽制機能強化のための体制整備等

- ・ リスクを適切に管理するための体制の一層の強化
- ・ リスク管理の高度化を推進する観点から、リスク・リターン分析ツール等をはじめとした各種ツールを活用する基盤整備を一層推進
- ・ **各種リスク管理に当たっては、地政学上のリスクや、気候変動によるリスク等の多様なリスクが取引環境を含め金融市場等に与える影響についても適切に考慮するよう努める**

次期中期計画の骨子案（現時点のイメージ）

（注）赤字部分が現行計画からの実質的な追加・修正部分

7. スチュワードシップ責任を果たすための活動及び E S G 等の非財務的要素を考慮した投資

（1）スチュワードシップ責任を果たすための活動

- ・ スチュワードシップ活動を一層推進する観点から、長期的な投資収益の向上につながる E S G 等の重要性を踏まえ、効果的なエンゲージメント（投資先企業との建設的対話）を行う。その際、専ら被保険者の長期的な投資収益の向上を目指すものであることを明確化
- ・ 「スチュワードシップ活動報告」をとりまとめ、経営委員会に報告
- ・ スチュワードシップ責任を果たすための方針に沿った対応を行うとともに、**アセットオーナー・プリンシプル取組方針に沿って、スチュワードシップ活動を深化させるための取組を推進**

（2）E S G を考慮した投資

- ・ 投資先及び市場全体の持続的成長が、運用資産の長期的な投資収益の拡大に必要であるとの考え方を踏まえ、被保険者の利益のために長期的な収益を確保する観点から、E S G を考慮した投資を推進し、**市場全体の持続的成長による長期的な投資収益の拡大、市場平均収益率の確保の両立を図りながら、取組を推進**
- ・ **年金積立金の管理及び運用の基本的な方針・運用目標等に留意しつつ、サステナビリティ投資方針に沿って取組を進めるとともに、P D C A サイクルを適切に回し、E S G を考慮した投資について継続的に検証を行い、その結果を取組の改善等につなげる**

（3）インパクトを考慮した投資

- ・ **市場平均収益率を確保しながら、被保険者の利益のために長期的な収益確保を図る観点から、投資先企業の事業内容がもたらす社会的・環境的効果（インパクト）を考慮して投資を行うことについて検討し、必要な取組を実施**
- ・ **その際、年金積立金の管理及び運用の基本的な方針・運用目標等に留意しつつ、サステナビリティ投資方針に沿って、取組を進める。取組が法人の運用に求められる基本的な考え方についての継続的に検証**

次期中期計画の骨子案（現時点のイメージ）

（注）赤字部分が現行計画からの実質的な追加・修正部分

8. 法人の業務運営を支える人材の確保・育成・定着等

（1）人材の確保・育成・定着のための環境整備

- ・ **人材に求められる業務やキャリアパス等の明確化、人材受入れの環境整備、法人業務の社会的意義の効果的な発信等を行い、法人の業務運営を支える人材を確保。**人材の報酬水準・体系については、必要に応じて、その報酬体系を成果連動型とすること等について、国民に分かりやすく説明
- ・ **組織として戦略的に人材の確保・育成・定着を進めるための機能の強化**

（2）業務遂行能力の向上等

- ・ 資産運用等の分野に係る専門的、実務的な研修を実施するほか、資格取得を積極的に支援
- ・ **法人として従業員エンゲージメント（各職員が法人の社会的意義や役割を理解し、そのために自発的に行動する意欲を高めること）の向上を目指す**
- ・ **特に女性の活躍を推進するための取組を一層強化し、多様な人材が活躍できる勤務環境の整備を推進**

9. 業務のデジタル化の推進等

（1）業務のデジタル化の推進

- ・ **データサイエンス等を活用した運用の多様化・高度化や運用リスク管理の高度化に資するデータを集約等する基盤整備の推進、組織横断的なデータマネジメント手法の確立に加え、業務の効率化等の観点からIT分野における専門人材の確保・育成を進める**
- ・ 事務の軽減・効率化等に資する業務のデジタル化を一層推進
- ・ **組織として戦略的に業務のデジタル化を推進するための機能の強化**

（2）情報セキュリティ対策

- ・ 情報セキュリティ対策の厳格な実施
- ・ 運用受託機関等における情報管理態勢の有効性評価の徹底
- ・ クラウドサービス利用時におけるセキュリティ対策の高度化

（注）赤字部分が現行計画からの実質的な追加・修正部分

10. 情報発信・広報及び透明性の確保

- ・ ホームページ等を活用した迅速・丁寧な情報発信
- ・ その際、専門家のみならず、国民やメディアに対する情報発信や広報活動の一層の充実に継続的に取り組むとともに、その評価・効果の把握・分析に努める
- ・ 特に、スチュワードシップ活動・ESGを考慮した投資・**インパクトを考慮した投資**・オルタナティブ投資に関する分かりやすい情報発信

第2 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1. 効率的な業務運営体制の確立

- ・ 経費節減、各部門の人員配置を実情に応じて見直し
- ・ 業務運営の効率化のため先進技術を積極的に活用

2. 業務運営の効率化に伴う経費節減

- ・ 一般管理費（システム関連経費及び人件費を除く。）及び業務経費（システム関連経費、管理運用委託手数料、運用指数利用料、人件費及び短期借入に係る経費を除く。）の合計について、新規追加・拡充分を除き、毎年度**1.33%**の効率化
- ・ 人件費については、政府方針を踏まえて適切に対応するとともに、運用の高度化・多様化やリスク管理の強化等に的確に対応できるような人員体制を確保
- ・ 給与水準については、国家公務員や金融機関等の給与等を考慮し、**必要な人材の確保等を図る観点にも留意しつつ**、適正化に取り組むとともに、検証結果等を公表

3. 契約の適正化

- ・ 調達等合理化計画に基づく取組を着実に実施

（注）赤字部分が現行計画からの実質的な追加・修正部分

第3 財務内容の改善に関する事項

- ・ 中期計画予算に沿った適切かつ効率的な運営

第4 予算、収支計画及び資金計画

1. 予算
2. 収支計画
3. 資金計画

第5 短期借入金の限度額

1. 短期借入金の限度額 **4兆円**
2. 想定される理由 予見し難い事由による一時的な資金不足等への対応

第6 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産がある場合には、当該財産の処分に関する計画

- ・ なし

第7 第6の財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

- ・ なし

第8 剰余金の使途

- ・ なし

（注）赤字部分が現行計画からの実質的な追加・修正部分

第9 その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1. 調査研究

- ・ 大学やシンクタンク等の外部リソースも活用しつつ、「専ら被保険者の利益のため」という目的に即した調査研究を積極的に推進
- ・ 調査研究で得られたノウハウの法人内での蓄積及び**法人内での人材育成を通じた調査研究の体制整備**の一層の推進に留意
- ・ **長期的な視野で取り組む基礎的な研究を含む多種多様な調査研究テーマの設定**
- ・ 調査研究業務に係るP D C Aサイクルの取組（研究テーマの設定、研究成果の評価、業務への活用等）を強化

2. 内部統制の一層の強化に向けた体制整備

- ・ 内部統制の基本方針に基づく内部統制体制の一層の強化
- ・ 法令遵守・受託者責任等の徹底、投資原則・行動規範の遵守
- ・ **業務執行能力の向上を図りつつ、業務執行の透明性・公正性の確保に一層取り組むとともに、内部統制体制・コンプライアンス徹底**等の観点から、法務機能の一層の拡充・強化
- ・ 運用機関等との不適切な関係を疑われないよう、再就職ルールの徹底

3. 監査委員会の機能強化等によるガバナンス強化

- (1) 監査委員会の職務の実効性確保のための体制強化
- (2) 監査及び監視の方針
- (3) 監査計画の策定と計画に基づく監査の実施
- (4) 内部諸規定に基づく業務運営の点検

4. 施設及び設備に関する計画

- ・ なし

5. 中期目標期間を超える債務負担

- ・ 債務負担行為の必要性・適切性を勘案し、合理的と判断されるものについて実施